



かしわざき

KASHIWAZAKI

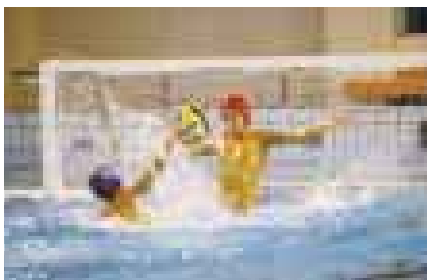
# 市議会だより

平成 21 年 7 月 20 日 発行

No. 137

発行  
柏崎市議会  
印刷  
株小田

ホームページアドレスは <http://www.city.kashiwazaki.niigata.jp>



水球 9月10日～13日  
柏崎アクアパーク



卓球 9月27日～30日  
柏崎市総合体育館



ハンドボール 10月2～6日  
柏崎市総合体育館



新潟国体旗リレー・八坂神社前  
(昭和39年5月)



柏崎高校水球チーム

新潟地震で夏季大会は中止、同年全国選抜大会を開き  
柏崎高校が優勝・海岸公園総合プール

## 2009 トキめき新潟国体

第64回国民体育大会

トキはなて 君の力を 大空へ



柏崎市  
開催種目



水球



卓球



ハンドボール

### 主な内容

- 議会人事・補正予算 …… 2～4P  
(主な議案・議員発案・議会日誌)
- 一般質問 …… 5～10P
- 議決一覧・議員賛否一覧 …… 11～12P
- 政務調査費会計報告 …… 12P
- 政務調査費活動報告 …… 13～14P
- 議員寄稿 …… 15P
- 委員会審査・編集後記 …… 16P

可決した主な案件は、平成二十一年度一般会計補正予算、妊産婦、乳児及び子どもの医療費助成に関する条例の一部を改正する条例、契約の締結(枇杷島小学校改築(建築本体)工事)などです。

市議会六月定例会は、六月八日から十九日までの十二日間の会期で行われました。審議した案件は、市長提出二十五件、議員提出四件、請願四件の計三十三件で、このうち三十一件を原案可決(同意・採択)、一件を否決(不採択)、一件を継続審査としました。

六月定例会



### 議会人事

## 斎木議長・飯塚副議長を選出

六月定例会初日に、議長、副議長の改選が行われました。議長選挙の結果は、

- 斎木 裕司議員 十六票
- 本間 厚幸議員 十一票
- 持田 繁義議員 三票

となり、斎木裕司議員が議長に当選、就任しました。

副議長選挙の結果は、

- 飯塚 寿之議員 十九票
- 五十嵐直樹議員 十一票

となり、飯塚寿之議員が副議長に当選、就任しました。

また、常任委員会及び議会運営委員会も任期満了による改選を行いました。(○印は委員長、○印は副委員長)

- ◎荒城彦一 ○砂塚定広
- 佐藤敏彦 霜田 彰

- 高橋新一 本間厚幸
- 真貝維義 三井田孝欧

#### 【厚生常任委員会】

- ◎笠原浩栄 ○吉野芳章
- 持田繁義 野中栄司
- 吉川英二 遠藤 清
- 丸山敏彦

#### 【文教経済常任委員会】

- ◎若井洋一 ○加藤武男
- 宮崎孝司 中村明臣
- 飯塚寿之 若井恵子
- 星野正仁 五十嵐直樹

#### 【建設企業常任委員会】

- ◎池田千賀子 ○村田幸多朗
- 片山康夫 入沢徳明
- 斎木裕司 矢部忠夫
- 梅沢 明

#### 【議会運営委員会】

- ◎佐藤敏彦 ○野中栄司
- 持田繁義 入沢徳明
- 霜田 彰 高橋新一
- 遠藤 清 真貝維義
- 吉野芳章 五十嵐直樹

### 一般会計補正予算を可決

六月定例会に平成二十一年度一般会計補正予算(第三号)が提出され、議会は全会一致でこれを可決しました。

この補正予算は、厳しい状況が続く経済情勢に対応した緊急雇用対策と中小企業への金融対策、企業の業績悪化による法人市民税の還付、農地・農業用施設の災害復旧経費の増額及びその他当初予算後におけるやむを得ない経費などについて、総額十一億九千四百四十万円を追加するとともに、地方債の追加及び変更を行うものです。

補正予算の主な追加は次のとおりです。

- ▼町内会集会施設建設資金貸付金・同事業補助金 四六七万二千元
- ▼コミュニティセンター整備事業(西中通コミセン) 三二四万円
- ▼かたくりの里管理運営費(修繕工事) 一一〇万円
- ▼成人歯科保健事業 九七万一千円
- ▼緊急雇用対策事業

- 三、六〇〇万円
- ▼中核後継者育成対策事業(新規農業従事者確保事業) 三二四万円

- ▼中小企業等融資事業 六億一、三〇〇万円

- ▼県信用保証協会負担金 二億二、六〇〇万円

- ▼柏崎フロンティアパーク整備事業 一、八〇〇万円

- ▼大崎雪割草の湯管理運営事業 二〇九万七千元

- ▼帆船日本丸柏崎寄港事業(復興事業) 二二〇万円

- ▼環境学校運営事業(夢の森公園) 一二九万六千元

- ▼豊かな体験活動推進事業(鯖石小学校宿泊体験) 一三六万一千円

- ▼キャリア教育パイロット事業(第一中学校区・職場体験の充実など) 八十万円

- ▼耐震補強事業(中通小学校) 四一〇万円

- 同 (東中学校) 一、二八〇万八千元

- ▼施設整備事業(西山中学校) 九八万円

- ▼農業用施設災害復旧事業(中越沖地震) 一億九、三〇〇万円

六月定例会に次の契約締結

案が提出され、これを可決しました。

### 〔工事〕

#### 枇杷島小学校の改築工事着工へ

- ▼枇杷島小学校改築(建築本体)工事 (金額) 十四億五、四二五万円

- (相手方) 植木・東北特定共同企業体

- ▼枇杷島小学校改築(電気設備)工事 (金額) 二億一、七三五万円

- (相手方) 丸万電気株



枇杷島小学校完成予定図



▼枇杷島小学校改築機械設備(工事)  
(金額) 一億六、八〇〇万円  
(相手方) ㈱ミタカ

▼中央地区学校給食共同調理場改築(建築本体) 工事  
(金額) 二億六八五万円  
(相手方) 村田建設㈱

▼中央地区学校給食共同調理場改築(機械設備) 工事  
(金額) 一億九、〇〇五万円  
(相手方) ㈱ミタカ

▼新橋海岸線道路新設工事  
(金額) 一億九、四二五万円  
(相手方) 東北工業㈱

〔財産の取得〕

▼消防ポンプ自動車台の購入  
(金額) 三、五一七万五千元  
(相手方) 日本機械工業㈱東京営業所

この消防ポンプ自動車は、平成22年3月から消防署西本町分遣所に配備されます。

▼小中学校教職員校務用パソコン七〇〇セットの購入  
(金額) 一億四、六九五万九、九一〇円

(相手方) ㈱柏崎情報開発センター

人事案件に同意

六月定例会に次の三件の人事案件が提出され、議会はこれに同意しました。

○監査委員

清水 文晴氏(新)

伊平 辰栄氏(再)

○公平委員会委員

山本 淨信氏(再)

六月定例会  
審議日程

- 6・8 本会議①議案審議
- 10 本会議②一般質問
- 11 本会議③一般質問
- 12 建設企業常任委員
- 15 厚生常任委員会
- 16 文教経済常任委員会
- 17 総務常任委員会
- 19 本会議④議案採決

市議会本会議の  
インターネット中継

市議会本会議のインターネット中継(生中継及び録画)を行っています。柏崎市議会ホームページからご覧ください。

抗議決議

議会は、北朝鮮の核実験とミサイル発射に抗議するため、6月8日の定例会初日に次の抗議文を全会一致で可決しました。

北朝鮮の核実験・ミサイル発射に関する抗議決議

北朝鮮は、去る平成21年5月25日、2回目の核実験を強行した。これは、北朝鮮の核実験を禁じた国連安保理決議1718への明白な違反のみならず、2005年の6カ国協議共同声明、さらには2002年の日朝平壤宣言にも反している行為であり、到底容認できるものではない。

このたび重なる核実験は、NPT体制に対する重大な挑戦であり、米国、韓国はもとより、中国、ロシアも同様に北朝鮮を非難している。今日までの相次ぐミサイル発射と並び、我が国の安全保障、北東アジア及び国際社会の平和と安定を脅かすものである。よって、柏崎市議会は、直ちに実験に関する施設の放棄を求めるとともに、北朝鮮の

暴挙に強く抗議し、断固として非難する。以上決議する。

委員会発案・議員発案

六月定例会で委員会発案一件、議員発案一件の意見書を可決し、関係機関に送付しました。

国直轄事業負担金の見直しを求める意見書

(要望事項) 地方の予算編成等に支障を生じないよう、国は、負担金の基準や内訳明細について、早期に十分な説明や詳細な情報提供を徹底し、事業主体として地方への説明責任を果たすこと。

負担金の対象とし得る経費の範囲について、明確な線引きを行うこと。

直轄事業の実施に当たっては、事前協議制度を導入するなど、地方の意見が十分反映できるように現行制度を改善すること。

直轄事業の維持管理費に係る負担金については、本来、その管理水準を決定する管理者である国が負担すべきであること。

直轄事業制度の根幹の見直しに向けて、国が責任を持

つべき事業の縮減や地方に移譲すべき事業の拡大を初め、制度にかかわる根幹的な問題について、十分に協議していくこと。地方が担うべき事業は、権限と財源を地方に移譲した上で、地方がみずからの判断で自主的、主体的に事業実施できるようにすること。

三〇人以下学級の実現、義務教育費国庫負担制度の国庫負担率二分の一復元を初めとする教育予算の充実を求める意見書

(要望事項) 三〇人以下学級の実施を初め、読書の推進、健康教育や食教育の充実、地域に根差した教育の推進など、さまざまな教育課題に対応するために「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律」を改正すること。

地域の事情や子供の実態を考慮した弾力的な教職員加配を行うこと。

義務教育費国庫負担制度を堅持し、国庫負担率を二分の一に復元すること。

豊かで行き届いた教育を実現するため教育予算を拡充すること。



飯塚邸に関する  
請願を採択

議会は、新道町内会より提出をされた、飯塚邸復旧工事及び再開促進を求める請願を審査し、これを全会一致で採択し、市長に送付しました。

(請願要旨) 史跡飯塚邸は、古くより当地域の大地主として地域経営に貢献し、地域内外の政財界に寄与すること大であつた飯塚家の居宅であり、近世近代の地方富裕層の生活ぶりを今に伝えていきます。終戦直後の昭和天皇全国ご巡幸に際しては当地方屈指の旧家邸宅として行在所に提供されており、その折の宮内省名称下賜の邸内日本庭園「秋幸苑」を含め、その文化的歴史的価値が認められ、柏崎市によって昭和48年文化財に指定されています。

中越沖地震では建物、庭園さらには資料館収蔵物が甚大な被害を受け、一昨年7月の地震以降休館のやむなきに至っています。先の中越地震でも被災し、仕切り塀、屋根、灯ろうなどの改修復旧工事を終えて二年、市当局、指定管理者の市立博物館の誘客戦略新道地域住民の支援協力が功

を奏し、認知度の高まりとともに再び入館者数、利用者数が従前以上の伸びを見せていた矢先の地震被災でした。飯塚邸は、新道地域住民にとつて心の拠りどころとしてその振興に努めてきた史跡であるとともに、柏崎市全体にとつても観光客を招致する有力観光施設であり、また生涯教育などの場として、文化資源としての大きな可能性を内包しています。

柏崎市および柏崎市議会が飯塚邸の再建と再開を前提に、早急に復旧工事計画を取りまとめられ、この具体化に努められることを切に期待するものであります。

六月定例会最終日の六月十九日に、議会運営委員長から二件の継続審査の申し出があり、一件目の申し出は全員異議なく継続審査とすることに決定しました。

二件目の申し出は、採決の結果、賛成多数で継続審査となりました。

▼地方自治法第109条の2第4項に規定する事項

を奏し、認知度の高まりとともに再び入館者数、利用者数が従前以上の伸びを見せていた矢先の地震被災でした。飯塚邸は、新道地域住民にとつて心の拠りどころとしてその振興に努めてきた史跡であるとともに、柏崎市全体にとつても観光客を招致する有力観光施設であり、また生涯教育などの場として、文化資源としての大きな可能性を内包しています。

閉会中継続審査申出

を奏し、認知度の高まりとともに再び入館者数、利用者数が従前以上の伸びを見せていた矢先の地震被災でした。飯塚邸は、新道地域住民にとつて心の拠りどころとしてその振興に努めてきた史跡であるとともに、柏崎市全体にとつても観光客を招致する有力観光施設であり、また生涯教育などの場として、文化資源としての大きな可能性を内包しています。

(理由)各定例会・臨時会の運営及び議会運営の調査・研究等について、閉会中もなお継続審査を要するため。(期間)上記の調査・研究等が終了するまで。

▼請第2号柏崎市議会議員定数の削減に関する請願(理由)今会期中に審査終了の見込みがないため。(期間)次回定例会の閉会まで。

議 会 日 誌

四月

8日 文教経済常任委員会・商工会議所意見交換会

9日 県市議会議長会春季定期総会(見附市)正副議長出席)

13日 議会運営委員会

15日 議会だより編集委員会

15日 18日 柏崎のみらい三議員・社会クラブ四議員研修出張(札幌市・夕張市)

19日 20日 自治研究会四議員研修出張(東京日野市)

22日 23日 北信越市議会議長会定期総会(福井市)正副議長出席)

27日 真貝議員調査出張(東京)

五月

9日 10日 三井田議員調査出張(大阪和泉市)

11日 静岡市議員視察来庁

15日 議会運営委員会

19日 議会運営委員会

20日 四日市市議員視察来庁

20日 市民クラブ三議員・蒼生会二議員・自治研究会三議員調査出張(東京)

20日 22日 公明党二議員・民友二議員・星野議員研修出張(東京)

23日 中越沖地震原発調査特別委員会(東京電力の報告)

五月 9日 10日 三井田議員調査出張(大阪和泉市) 11日 静岡市議員視察来庁 15日 議会運営委員会 19日 議会運営委員会 20日 四日市市議員視察来庁 20日 市民クラブ三議員・蒼生会二議員・自治研究会三議員調査出張(東京) 20日 22日 公明党二議員・民友二議員・星野議員研修出張(東京) 23日 中越沖地震原発調査特別委員会(東京電力の報告)



東京電力(株)の報告

市議会全員協議会(原子力安全・保安院の報告)

26日 全国原子力発電所所在市町村協議会総会(東京)霜田議長出席)

七月

27日 全国市議会議長会定期総会(東京)霜田議長出席)

27日 28日 若井(恵)議員・遠藤議員・星野議員調査出張(仙台市)

29日 臨時議会

議会だより編集委員会

六月

2日 砂塚議員研修出張(東京)

5日 長野県議会議員調査来庁

8日 議会運営委員会

8日 19日 六月定例会

9日 市議会全員協議会(原子力安全・保安院の報告)

10日 議会運営委員会

12日 会派代表者会議

19日 市議会全員協議会

26日 元議員戸田東氏叙勲祝賀会

30日 1日 公明党二議員・遠藤議員・荒城議員・星野議員調査・研修出張(東京)

1日 議会だより編集委員会



## ガス・水道事業の現状と 今後の方向性



荒城 彦一 議員

- 一 ガス・水道事業の現状と今後の方向性について
- (一) ガス事業の民営化への取り組みと方向性について
- (二) 水道事業の給水拡張への取り組みと方向性について
- (三) 両事業の収支見通しと料金改定見通しについて
- 二 プレミアム商品券の追加発行について
- (一) 販売結果をどのようにとらえているかについて
- (二) 今後の経済効果と消費性向について
- (三) 追加発行の予定の有無と考え方について

平成二十三年四月にガス事業民営化の方向が示されているが、その基本的な考え方や姿勢について伺う。

西山地区給水拡張の進捗状況・見通し、刈羽村への給水計画の経緯と全容、また、これらの事業について、市民の理解をどのように求めていくのか。

### ◎市長

中越沖地震災害対応のためガス事業で起債した約五十六億円の償還について、特別交付税措置が見込まれる一般会計での負担を検討してきたが、

ガス事業を民営化する際には一括償還する必要があることから、特別交付税についても一括繰り上げての交付を国に要望してきた。結果的には、財政上のメリットが大きく損なわれることになり、ガス事業民営化の基本方針を変えるものではないが、当面、延期せざるを得ないと考えている。

西山地区への給水は、合併とともに平成十七年度から着手し、震災により一年延期となったが、平成二十二年度末には給水できると考えている。

刈羽村への給水は、西山地区給水拡張事業を機に刈羽村

長から要請があったものであり、先人の努力、市民の水道に対する愛着に思いをめぐらせる一方、刈羽村との水をめぐる経緯も踏まえ、決断しなければならぬ。刈羽村給水を実施した場合、過去の投資について刈羽村から応分の負担をしていただき、水道料金の改定率の圧縮など、市民への還元策として検討していく。

また、今後とも広報等で検討状況をお知らせし、御指摘の谷根地区の皆さんには、理解が得られるよう十分な説明が必要であると考えている。

# 一般質問

# 市政のここが知りたい 市政にこれを提案したい

(質問の全項目を冒頭に記載、その内容の一部を掲載しました)



## 議会での市長与党の必要性



砂塚 定広 議員

- 一 議会と市長の直接責任と議会改革等のあり方を問う
- (一) 議会と市長の関係は、ともに住民選挙で選ばれるため、二元代表制の直接責任が通説である。分権時代において、この考え方を直す必要はないか
- (二) 議員定数の削減について
- (三) 議会運営と市長与党について
- (四) 議会改革と具体的取り組みについて
- 二 学区等審議会の方針と統廃合検討対象校区について
- 三 世界禁煙デーと喫煙マナーの向上について

国会は議院内閣制であり、与党・野党が存在するのは当然であるが、地方議会には議長を支えることができない市長に対して、市長与党・市長野党と称して議会活動をしなければならぬ必然性はない。市長与党・市長野党の考え方が強くなり過ぎると、両者の確執だけでなく、いわゆる議拘束に近い制約が生まれ、議員活動の健全性が損なわれる危険性がある。議会の健全性を高めるためにも、今後の市政運営のためにも、議会と市長の関係も進化が求められる。

市長与党の必要性についての認識しているか。

### ◎市長

御指摘のとおり、市長は、議院内閣制をとっている国会とは違い、多数会派から選出されるわけではなく、そもそも地方自治体においては、与党・野党の概念はないものと考えている。

市長としての基本的な姿勢については、就任したときから一貫して、市民党という立場で、市民の生活、意向を踏まえ、市民の声を聞きながら

市政を運営し、市政の発展に努めてきた。今後とも、議会において施策、事業等を提示し、議員の皆さんから真摯に議論していただくことをお願いしたい。



## じよんのび村改修工事の経過と検証



星野 正仁 議員

- 一 じよんのび村改修工事について
- (一) 改修工事に至るまでから完成までの経過及び検証
- (二) 改修工事にかかわるさまざまな問題点への考え方、今後の取り組みについて
- (三) 今回の工事でのじよんのび村協会と高柳町事務所、柏崎市役所のかかわり方について（指定管理者について）

じよんのび村整備事業が、合併特例事業の見直しで大きく予算額が増えた理由は、

また、じよんのび村改修工事においては、合併後における市役所内部の組織・連絡系統が不明確であり、その結果として、さまざまな問題が生じたのではないかと。

今後、行政改革推進室を中心に、指定管理者と市のかかわり方と組織のあり方、施設改修の費用分担を含めた指定管理業務の内容など、合併後に生じている問題・課題について、整理・見直しが必要であると考えるが、どうか。

### ◎市長

じよんのび村整備事業は、当初の新市建設計画で合併特例事業として、主に老朽化し

た不具合の改修、バリアフリー化を図り、高柳地域の活性化に寄与する施設として整備を行うとしたものである。この計画の段階では、詳細な検討が行われていたわけではなく、その後の合併特例事業全体の見直しの中で、高柳地域の核心的施設として、温泉施設の充実、日帰り客・宿泊客のゾーンの明確化、その魅力の創出など集客力を向上させることが適当であるとの考えから、全面的な見直しを行った。

また、基本設計・実施設計は観光交流課が担当し、改修工事が始まってからは、現場での対応が多くなることから高柳町事務所地域振興課が担当して行ってきた。

設計変更について、指定管理者であるじよんのび村協会の意見が強かったかのような指摘であるが、その意見を斟酌しながら、指定管理者、市、設計者がその都度、協議をして進めてきた。

今回のように、関係者が多くなる中で、どう連携し、調整を図っていくか、御指摘の組織の中での連携を含めて検討し、徹底していく。

## 市制施行 70 周年事業に 文化振興事業を



三井田 孝欧 議員

- 一 旧柏崎トルコ文化村の現状及びアタチュルク像の移設に関する対応について
- 二 市職員による不祥事対応の厳格化について
- 三 北朝鮮による核実験・ミサイル発射に対する市長の考え、拉致問題への取り組みの状況について
- 四 市制施行七十周年に向けて、これまでの新民謡を再評価、番神水族館の復活など、柏崎らしさと活力ある事業を行うべきと思うが、見解を問う

番神の自然水族館の復活は、「海の柏崎」市制施行七十周年

年記念事業として、環境や食育の観点からも、時代にマッチしたふさわしいものであると考える。また、経費をかけずに取り組める事業でもあり、通年観光施設である番神の浜茶屋の件の経緯からも、冬でも人を呼べる施設として整備を検討すべきと思うが、どうか。

柏崎は「民謡の宝庫」であり、アノソ節、柏崎小唄などの新民謡に加え、市制施行二十周年制作の海の柏崎、歌碑が建立されている「笠島小唄」などがある。これら地域の昭和の歴史・文化を後世に伝えるべきではないか。行政として著作権使用の優位性もあり昭和と平成の世代が交差する七十周年事業として、取り組む考えはあるか。

### ◎市長

当時の弁天岩自然水族館と同じようなものでは、安全面や維持管理など、いろいろな問題があり、よく考えなければいけない。

新民謡の件については、まずは市民から広く知っていただくことから始まるのではないかと。いずれにしても、七十周年

記念事業については、今後、議会や市民に相談しながら検討していく。

## 今後の被災者支援は



池田 千賀子 議員



- 一 被災者支援の今後について
  - (一) 仮設住宅設置期限までの入居者の生活再建について
  - (二) 復興公営住宅入居者に対する支援の体制について
  - 二 木質バイオマス資源の利活用の課題について
  - (一) 市内の森林の成長量と燃料として活用した場合の継続可能性
  - (二) 木質バイオマス量と搬出可能量
  - (三) 木質ペレット製造事業・ユーザー開拓と市の役割

### ◎市長

五月末現在で、三百十五世帯、七百三十五人が入居しているが、このうち約百五十世帯が復興公営住宅に入居する予定である。

自宅を再建する方も、ほとんどの方が、八月までの退去期限には再建が完了されるが、期限までに完成できない数世帯については、復興基金事業による家賃支援を活用いただき、一時的に民間賃貸住宅などへの転居をお願いしている。民間賃貸住宅への入居を予定しているが、条件等のためいまだ契約に至っていない世帯もあるが、引き続き、早急に決定していただくよう努力していく。

復興公営住宅には、御指摘のように高齢者や障害などを抱える方も多く入居するため、きめの細かい生活支援が必要と考えており、地元町内会を含め、関係団体と支援体制や事業展開について検討を重ねている。具体的には、生活支援相談員を継続して配置、復興公営住宅の附属施設を活用したコミュニティの形成支援や地域住民との交流促進、介護予防事業、健康サポート事業なども検討している。

仮設住宅は、設置期限が二年とされており、当初から、入居者全員の生活再建が達成できるのか心配されていた。現在、仮設住宅で暮らしている方は、仮設住宅の退所期限までに再建が可能な状況なのかどうか。

復興公営住宅入居者の高齢化率は六二％であり、見守りをしつかりとする必要がある。支援の基本的なスタンス、支援の体制と連携、地元との関係について、どのように考え、調整が進んでいるのか。



## 子育て・教育支援の現状



片山 康夫 議員

- 一 本物の舞台芸術体験事業（小・中・高が行っている学校芸術鑑賞教室）を活発にすることについて
- (一) 芸術鑑賞教室の開催状況、参加者数、子供や保護者の負担の実態はどうなっているか
- (二) 芸術鑑賞を気軽に受けられるように、子供・保護者の負担の軽減が必要と考えるが、対策について
- (三) 鑑賞教室を今後活発にしていくために、県・国に対して補助金の増額を要請すること
- 二 コミュニティを守るから生活交通の充実を図ること

とについて

(一) 第二循環バスの利用状況は。今後の運行路線、停留所について改善が必要ではないか

(二) 地域づくりと有機的に関連した路線バス・乗り合いタクシー・スクールバスなどの公共交通の活用

(三) 福祉・環境・観光と結びついた交通政策

(四) 高齢者の運転免許証を返納した際の対策の充実を図ること

(五) 交通権の確立は国民の権利であり、「交通権憲章」を制定するよう国に働きかけること

三 子育て・教育費の重圧に苦しむ家庭に生活保護や就学援助などの支援を強めること

子育てや教育の支援に関して、保育料などの滞納や就学援助を受ける世帯の増加の原因の分析、制度のあり方や周知徹底などについて、見解を問う。

### ◎市長

保育料の滞納は平成十八年度以降、減少傾向にあるが、家族の病気、収入の減少など

が原因と承知しており、納入相談、分割納入などにより、個々に対応している。就学援助は、制度利用に対する抵抗感が少なくなっていること、一人親家庭が増加していることなどが原因と考えられる。幼稚園就園奨励費制度は、広報かわざきや入園案内に掲載し、制度変更も、随時、幼稚園を通じ、保護者全員に周知している。その支給方法は、保護者から特に意見もなく、現在の幼稚園を通して保護者に支払う方法が適当と考えている。

## 観光産業の新潟県との協働・不況対策としての活性化



加藤 武男 議員

一 柏崎市と新潟県との協働による本市の観光産業活性化について問う

二 不況対策としての観光産業活性化策を問う

三 高速道路による本市への観光客誘客について問う

四 中越沖地震により被災した「飯塚邸」及び「えんま堂」への再建支援の取り組みを問う

五 海岸美化について問う

六 「海の柏崎」という柏崎の観光の目玉、中でも海の玄関である港の今以上の有効使用について問う

市長がマニフェストに掲げた平成二十四年度に観光交流人口の入込客数四百万人の達成に向けた本年、全国的にも新潟県が目ざされ、本市にとっても観光復興の大きなチャンスのある年である。

新潟県観光立県推進条例、それに伴うアクションプランをどのように本市の観光活性化に連動させていくのか。

また、現下の不況の中、観光産業と他の産業の連携による新たな価値の創出・活性化についてどのように考えるか。

### ◎市長

従来の「見る・食べる・遊ぶ」を中心とした旅行だけでなく、「体験する・交流する・学ぶ」といった観光ニーズも高まっていることから、こうしたニーズの多様化に対応し、新たな観光の魅力づくりや観光旅行者に対する多彩な観光の提案について、県ふるさと雇用再生特別基金を活用し、新たな観光商品の開発、マーケットリサーチ・販路開拓に取り組んでいる。

また、十月から食をテーマに開催される新潟「デザイン・キッチン」キャンペーンでは、柏崎真鯛、かやぶぎの里の田舎料理体験、木村茶道美術館を全国発信し、さらには、柏崎越後七街道観光まちづくり会議への住民の協力と参画を促し、地域に対する誇りと愛着を持てる地域づくりを進めていきたい。

他産業との連携については、海の柏崎に、自然景観・祭りやイベントなどの観光素材、グルメ・特産品を生かした誘客に取り組み、また、柏崎にはものづくりの蓄積があり、自動車関連産業など製造業や農業と結びつけた観光コースの検討も、今後の活性化策に成り得るのではないかと。



## じよんのび村改修工事 所期目的と効果・課題



若井 恵子 議員

- 一 じよんのび村の改修工事について
- (一) 温泉の改修とバリアフリー化を目的とする工事は完了したが、今回の改修工事で当初目的を達成できたのか
- (二) 改修工事の効果と施設に関する今後の課題について
- 二 安心して暮らせる高齢社会の実現を目指して
- (一) 介護支援ボランティア制度の取り組みについて
- (二) 福祉総合相談窓口の設置について
- 三 新経済対策における女性の健康支援、がん対策につ

いて

- (一) がん検診の情報提供について
- (二) 子宮頸がん、乳がん検診の無料クーポンについて
- (三) がん検診の受診率の向上について

じよんのび村改修事業は、合併特例事業の見直しにより大幅に増額され、その後さらにペレットボイラー導入により変更されたが、その目的は達成できたのか。今回の工事は、税金を投入しての公であるからこそこそできる改修計画であり、だからこそこそしっかりと健全経営の視点から取り組むべきである。年間売上高目標が損益分岐点と同じ三億五千万円というのは、妥当なのかどうか。

また、未改修の施設、集客と売り上げの増加についての、今後の対応と取り組みは。

### ◎市長

今回の工事は、温泉棟の改修やバリアフリー化、日帰り客・宿泊客のゾーンの明確化とその魅力の創出など、じよんのび村協会の要望を踏まえ、双方で協議をして、基本設計・実施設計を経て精査して

進めたものであり、予算の範囲内で所期の目的に沿った改修ができたものと受けとめている。当初の計画に盛り込まれていたエレベーター設置や一部の段差解消は、維持管理費など、費用対効果の観点から実施しなかったものである。年間売上高目標は、過去の業績から決して易しい目標ではないと考えており、地震による直接被害や風評被害により、苦戦を強いられているがこれを契機に、さらに誘客につなげていっていただきたいと期待している。

## 政府の経済危機対策の 評価・事業の活用



宮崎 孝司 議員

- 一 政府の「経済危機対策」について
- (一) 政策に対する評価について
- (二) 臨時交付金、基金等の活用について
- 二 介護保険における大量待機者の解消が進まないことについて
- (一) 待機者の現状と解消策が進まない原因について
- (二) 国の社会保障費の削減を目的に介護保険が制度改正されたことについて
- 三 学校後援会の実情と役割について
- (一) 教育の機会均等を行政の責任で果たすことについて
- (二) 学校後援会等のあり方を検討することについて

市町村が行う事業に限られている、ふるさと雇用再生特別交付金や緊急雇用創出事業交付金は、どのように活用されたのか。地域活性化・生活対策臨時交付金は、事業の多くが施設改修や備品配備に使われたが、地域の活性化にどのような効果を期待したのか。

また、〇九年度経済緊急対策の地域活性化・経済危機対策臨時交付金は、受注機会の

拡大、仕事起こしなどを期待するが、どう考えているか。

### ◎市長

ふるさと雇用再生特別交付金は、雇用予定数九人のうち四人が、緊急雇用創出事業交付金は、二十一人のうち十八人が採用されている。この二つの事業は、長期的な雇用創出と、次の雇用までの短期創出をカバーするものであり、それぞれ目的にあった活用を行っている。あわせて、市単独の事業も実施し、可能な限り、再就職の支援に努めたい。

地域活性化・生活対策臨時交付金は、御指摘のとおり学校教職員パソコン環境、総合福祉センターやコミュニティセンターの整備事業に前倒しで活用し、早期発注による地元への一定の経済効果や、財政負担の軽減を図ることができた。ただ、計画策定まで十分な時間がなかったことなど、中・長期的な視点での効果的な活用が難しかった。

〇九年度経済緊急対策事業は、市民生活の安心・安全はもとより、緊急度や市民に密着した事業を優先的に考慮するが、一方で将来の財政負担も考慮していく必要がある。



## じよんのび村改修工事の 諸問題への対応



遠藤 清 議員

- 一 じよんのび村改修工事に伴う諸問題への対応について
- 二 市の保有する情報の共有と公開のあり方について
- 三 今後の震災被災者支援の方向感

じよんのび村の施設改修工事について、当初の実設計後において、ペレットボイラー導入の検討が具体化され、設計が変更されたことについて、その経緯や責任など、問題点について問う。

また、温泉施設の屋根から道路へ落雪したことに伴い、道路法に基づく改善命令を受

けたことについて、設計の問題を含め、その経緯と今後の対応について伺う。

### ◎市長

当初の設計から工事が終わるまでの間は、発注者・設計者等の協議により変更・修正は当然あり得ることであるが、今回、じよんのび村の施設改修工事については、一部において手続に不適切なところがあつた。

温泉施設屋根の落雪対策については、従来から、屋根からの面に落雪後、必要なときに除雪作業を行ってきたり、今回の改修工事の設計に当たっても、同様に対応できるものとの考えがベースにあり、その対策に思いが至らなかつたのではないかと。結果として、降雪期に交通に支障を来す事態となり、温泉施設屋根から道路への落雪の可能性について、設計の段階で事前にチェック・確認できなかったことについては、深くお詫びをする。

設計者に責任を求めることについては、現在、顧問弁護士と相談している最中であり、現段階では考え方・方針はまとまっていない。

今後の屋根落雪対策につい

ては、屋根上で融雪し、その排水について雨水対策とあわせて対応することを検討している。課題であったランニングコストも、不凍液を屋根上で循環することや熱源にペレットボイラーを活用することで大幅に軽減されると予想される。また、これまで苦慮していた除雪対策に対しても改善される見込みである。なお、ペレットボイラー機械室は、落雪とめを設置し対応した。

## 核兵器廃絶柏崎平和都市宣言と 戦争体験の継承



持田 繁義 議員

- 一 憲法九条を守り、平和行政を推進するために
  - (一) 「核兵器廃絶柏崎平和都市宣言」を発すること
  - (二) 戦争体験を継承し、戦争に対する想像力をはぐくむこと
- 二 地球温暖化防止と深くかわる農林業の復権について
  - (一) 担い手対策において、価格保障は極めて重要である。国への進言を強める必要性について
  - (二) 山間地農業、棚田保護・維持に特別の所得保障を求めるとの意義について
  - (三) 農村・林野の景観づくりは、住環境の土台、環境産業づくりへとつなげる重要性について
  - (四) 農業者の意見が反映されていない農地法の改正は、中止すること
- 三 原子力発電所を取り巻く状況について
  - (一) 原発も温室効果ガスの発生源であることを認めるべきではないか
  - (二) 原発誘致など、地方自治体に判断をゆだねる現在のあり方、その本質は、地方自治への政治的誘導につながっているのではないか

当市にとって、核兵器廃絶を訴える平和行政は重要な課題である。今日的な情勢を生かし、核兵器廃絶柏崎平和都市宣言を発する中で、平和行政に積極的に取り組むことを求める。

また、戦争体験を持たない世代が多数になる今日、戦争体験を語り継ぐ、その具体が重要である。憲法九条を暮らしに根づかせるためにも、市民に最も身近な行政として軽視してはならない仕事の一つと考えるが、見解を求める。

### ◎市長

核兵器廃絶柏崎平和都市宣言を行うことは、市民の恒久平和への願いが集結され、世論の高まりとなるのが大切である。宣言に至る話し合い、機運の醸成、制定後の市政における展開、施策などを含め検討する必要がある。

戦後六十五年を経過し、戦争体験者が少なくなってきたこと、家庭や地域における継承が薄れてきていることかと思ふ。戦争と平和について、学校の授業を通じて、後世に伝えるべきことは伝えていくことを教育委員会と連携し、継続して取り組んでいく。





平成 20 年度 政務調査費の会計報告

柏崎市議会における、会派が行う市政に関する調査研究に資するため、必要な経費の一部として、議会の会派に対し政務調査費を交付していますが、平成 20 年度の各会派の支出状況を次のとおり報告します。  
 なお、政務調査費は会派所属議員 1 人当たり 48 万円が交付され、残余の額が生じた場合は返還しています。

会派 費目	日本共産党柏崎市議員団 (3 人)	整風会 (4 人)	市民クラブ (3 人)	柏崎のみらい (3 人)	社会クラブ (4 人)	公明党 (2 人)	平成会 (3 人)	自治研究会 (2 人)	民友 (2 人)	蒼生会 (2 人)	明友会 (2 人)
議員名	片山 康夫 宮崎 孝司 持田 繁義	三井田孝欧 五十嵐直樹 梅沢 明 丸山 敏彦	吉川 英二 斎木 裕司 霜田 彰	佐藤 敏彦 池田千賀子 飯塚 寿之	若井 洋一 笠原 浩栄 高橋 新一 矢部 忠夫	若井 恵子 真貝 維義	星野 正仁 荒城 彦一 吉野 芳章	村田幸多朗 砂塚 定広	遠藤 清 本間 厚幸	中村 明臣 入沢 徳明	野中 栄司 加藤 武男
支給額	1,440,000	1,920,000	1,440,000	1,440,000	1,920,000	960,000	1,440,000	960,000	960,000	960,000	960,000
利息	678	453	864	753	1,112	312	228	510	554	633	525
収入合計	1,440,678	1,920,453	1,440,864	1,440,753	1,921,112	960,312	1,440,228	960,510	960,554	960,633	960,525
研究研修費	627,400	224,090	384,110	448,265	425,555	584,134	341,371	135,600	294,756	109,540	133,560
調査旅費	42,520	1,547,650	876,200	206,300	440,648	195,120	842,450	386,870	186,890	248,070	306,920
資料作成費	0	4,316	0	40,000	153,300	0	13,000	0	5,565	0	0
資料購入費	177,357	76,975	16,750	169,759	348,840	72,955	53,190	35,140	36,925	284,139	0
広報費	226,357	31,350	88,897	0	10,210	0	0	0	0	0	45,067
広聴費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務所費	2,225	36,072	0	44,914	125,931	65,635	190,217	190,599	0	318,884	27,935
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支出合計	1,075,859	1,920,453	1,365,957	909,238	1,504,484	917,844	1,440,228	748,209	524,136	960,633	513,482
差引残額(返還額)	364,819	0	74,907	531,515	416,628	42,468	0	212,301	436,418	0	447,043

科目	内容
研究研修費	研究会等を開催するための経費、及び他の団体の開催する研修会等に参加する経費
調査旅費	先進地調査及び現地調査の経費
資料作成費	調査研究活動のために必要な資料作成の経費
資料購入費	調査研究活動のために必要な図書、資料等の購入経費
広報費	議会活動、及び市の施策について報告及びアピールするための経費
広聴費	会派の政策等に対する要望、意見等を聴取するための会議等の経費
人件費	調査研究活動を補助する職員を雇用するための経費
事務所費	調査研究活動のために必要な事務機器購入費及びリース料等
その他	上記に掲げる経費以外で調査研究活動に必要な経費



議員賛否一覧 (6 月定例会の採決における議案等の賛否の状況)					
議員名	議案等	廃棄物の処理及び清掃に 関……条例の一部改正	30 人以下学級の実現、 義務教育……意見書(案)	市議會議員定数の削減……を継 続審査とすることに対する賛否	国体開催を機に市議会議 場に市旗・国旗……請願
片山 康夫		○	○	○	×
宮崎 孝司		○	○	○	×
持田 繁義		○	○	○	×
中村 明臣		○	○	○	×
入沢 徳明		○	○	○	×
村田 幸多朗		○	○	○	×
砂塚 定広		○	○	○	×
野中 栄司		○	○	○	×
加藤 武男		○	○	○	×
佐藤 敏彦		○	○	○	×
池田 千賀子		○	○	○	×
飯塚 寿之		○	○	○	×
吉川 英二		○	○	○	×
霜田 彰		○	○	○	×
斎木 裕司		—	—	—	—
若井 洋一		○	○	○	×
笠原 浩栄		○	○	○	×
高橋 新一		○	○	○	×
矢部 忠夫		○	○	○	×
遠藤 清		○	×	×	○
本間 厚幸		欠	欠	欠	欠
若井 恵子		○	×	×	○
真貝 維義		○	×	×	○
星野 正仁		×	×	×	○
吉野 芳章		×	×	×	○
荒城 彦一		×	×	×	○
三井田 孝欧		×	×	×	○
五十嵐 直樹		×	×	×	○
梅沢 明		×	×	×	○
丸山 敏彦		×	×	×	○

○は賛成 ×は反対 欠は欠席 斎木裕司議長は採決に加わりません。  
 ※平成 21 年 6 月定例会から賛否が分かれた議案等について、賛否の状況を掲載しています。

### 政務調査費による 各会派の活動報告(2)

市議会の各会派では、政務調査費により、調査・研修等を行っており、その活動の一部を報告します。

#### 政務調査費による活動報告

公明党

2月8日、柏崎ワークプラザにおいて全国の区、市議会ですべて初めて議会基本条例を制定した三重県伊賀市議会の本村幸四郎議員を招いて「市民に開かれた議会、市民との情報共有を目指した議会改革に学ぶ」と題して公開学習会を市民約60名の参加を得て開催した。

伊賀市では議会基本条例の制定にあたり、約83団体と意見交換し、約3ヶ月間で600人以上の市民から直接議会改革への意見を頂き、条例の素案をまとめた。議会基本条例には「政策討論会」の開催、市民への議会報告会を地区ごとに行うことや執行部側への反問権の付与、議案に対する各議員の賛否の公表などを定めたほか、議員定数は人口規模、面積、財政力、事業課題、類

似市との比較の五つの基準を明確にしたとの報告があった。

議会基本条例は市長と議会の「二元代表制」を基本に議会のあり方を定義づける議会の憲法といふべきものである。

市長と議会が対峙し、本会議とは別に議員間で政策討論会を義務付けることで市長と緊張関係を持ちながら、政策形成をすることができるようになったとのこと。今では専門誌などで紹介され、300近い議会が議会基本条例に関する視察に訪れているとのことでした。

公開学習会終了後の参加者のアンケートでは議員定数の削減は行うべきであり、議会基本条例を是非制定してほしいとの声が寄せられた。

また、議会の情報がなかなか伝わって来ないという声も寄せられた。社会の急激な変化によって市民ニーズが多様化しており、住民の代表である議会の意思と市民の意思が乖離しない努力が必要とされています。その意味でも議会には積極的に市民に開かれた議会を、そして市民と情報を共有していかなければならないと感じた。

#### 政務調査費による活動報告

自治研究会

自治研究会は、平成19年当選時に、柔道を通じて30年来の旧知の仲であった、砂塚定広(代表)と村田幸多朗が、「住民が主体的に参加する、自治のまち柏崎」を目指して結成した会派です。

本年度より、これまでの採決に同一歩調をとってきた「明友会」と統合し4名で会派活動を行います。

☆これまでの主な政務調査活動

◎沖繩本島及び宮古島

(平成20年1月23日～25日)

平成会と二会派7名で、宮古島の砂糖きびを原料としたバイオエタノール製造研究施設等を、また本島では浦添市民会館にて、計画から完成までの経緯と施設案内を受け、新市民会館建設の参考となりました。

◎石川県輪島市・穴水町

(平成20年3月25日～26日)

野中議員・加藤議員と4名で、輪島市・穴水町の仮設団地を訪問調査し、逆に励まされる。輪島市門前町支所では復興の現状を聞き、県が建て

た復興モデル住宅を視察する。

◎北海道三笠市・札幌市・夕張市

(平成20年10月8日～11日)

明友会と2会派4名で、三笠市の「バイオマスタウン構想」に基づく生ゴミ堆肥化施設・札幌市定山溪では、先進的な定山溪観光協会の取り組み・夕張市では、財政破綻の背景と財政再建の取り組み状況について調査をいたしました。

特に夕張市では、炭鉱閉山による人口急減を危惧し、地域経済の救済対策として観光施設等に580億の公共投資を行ったが破綻に至った。市は赤字を隠すために、一般会計と特別会計間で年度を跨ぐ不正な会計処理を続け、それを議会も監査委員会も市民も全く見抜けなかった。その結果、1万2千人の町が350億円の赤字を抱え、これを18年間で返済する厳しい計画である。

現在国が指導する再建策は、職員6割削減の上、給料3割カット。住民サービスは道内最低、負担は最高と惨めなものである。

柏崎市は財政健全化に努めており、第二の夕張には成り

得ないと確信しますが、会計監査の充実と、分かりやすいシステムの公開が必要であると痛感しました。(文責 村田)

#### 「新しい公共」とは

民友

今回の行政視察は、民と官がともに担う「新しい公共」に関して先進的な取り組みを始めている我孫子市に行ってきた。これからの行政の役割として、①公権力を伴わなければできない仕事、②市民とともに定めたまちづくりの目標に向かつて、あらゆる市民や企業の活動をコーディネートし、下支えしていく仕事の二つが中心であるとの考えにたち、公共サービスを実際に提供する事業は、徹底して民間に任せることが必要であり、コミュニケーションの中で公共サービスを担う仕組みをつくり、多様な民間の主体を育てていく事が大切である。公共を担う民間の主体を豊かにすることによって、公共サービスをより充実させつつ、スリムで効率的な市役所を実現できるとの考えから、「提案型公共サービス民営化制度」を実施し



ている。

この制度は、今までの官の発想による委託から、民の提案に基づく委託・民営化への転換を狙ったものである。H17年に行政評価表をもとに例外なくすべてをリストアップした結果、1,131事業に上り人件費も含めた事業費をホームページ上に公表。これをもとに市民にプラスになる提案に限って事業提案を募った結果、85件が提案され審査の結果66件が残り37件が採用となった。成果として、「サービス向上とコスト削減」「行政の発想では生み出せなかった事業と団体との新たな結びつき」「審査過程における企業や団体との意見交換・協議を通じて職員の意識改革を促す結果」となった。今後の課題として、庁内支援体制整備などにより提案しやすくする工夫や提案者へのアドバンテージ（入札のあり方）など提案意欲を高める魅力的な仕組みにしていく必要があるとのことだった。

員の改革意識の高さを感じる視察となった。

政務調査費による活動報告

蒼 生 会

- (一) 第6回全国原子力発電所立地議会サミット参加費
- (二) 隣国・韓国農業の現況視察費
- (三) 議会活動参考図書 の購入費
- (四) 各種会議等の交通旅費、その他事務用品の購入費

日本共産党柏崎市議員団・整風会・市民クラブ・柏崎のみらい・社会クラブ・平成会・明友会の七会派の活動報告は、前号の市議会だより第一三六号（4月20日発行）に掲載しました。

各常任委員会が調査研究のため行う先進地視察は、中越沖地震災害に対応する必要から、平成20年度は実施しませんでした。

党派別所属議員（平成21年4月1日現在）

日本共産党柏崎市議員団	持田 繁義	宮崎 孝司	片山 康夫
整 風 会	丸山 敏彦	五十嵐直樹	三井田孝欧
市 民 ク ラ ブ	斎木 裕司	吉川 英二	霜田 彰
柏 崎 の み ら い	池田千賀子	佐藤 敏彦	飯塚 寿之
社 会 ク ラ ブ	笠原 浩栄	高橋 新一	矢部 忠夫
公 明 党 会 派	真貝 維義	若井 恵子	
平 成 研 究 会	吉野 芳章	星野 正仁	荒城 彦一
自 治 研 究 会	砂塚 定広	野中 栄司	村田幸多朗
民 友 会	本間 厚幸	遠藤 清	加藤 武男
蒼 生 会	入沢 徳明	中村 明臣	

※明友会は平成21年3月31日に解散し、2議員は自治研究会に加入しました。

永年勤続議員表彰

このたび、次の八議員が永年勤続議員として表彰されました。

○全国市議会議長会及び北信越市議会議長会から

（十年）

- 中村 明臣議員
- 入沢 徳明議員
- 吉川 英二議員
- 斎木 裕司議員
- 霜田 彰 議員
- 笠原 浩栄議員
- 遠藤 清 議員
- 若井 恵子議員

○全国市議会議長会から

（正副議長四年）

- 霜田 彰 議員

市功労者表彰

6月定例会の初日に、次の六議員が在職十年以上として、市長から表彰されました。

- 中村 明臣議員
- 入沢 徳明議員
- 霜田 彰 議員
- 笠原 浩栄議員
- 遠藤 清 議員
- 高橋 新一議員



叙勲受章祝賀会

元議員 戸田 東 氏  
叙勲受章祝賀会

春の叙勲で、自治功労により、旭日双光章を受章された戸田 東 氏の叙勲受章祝賀会が六月二十六日、柏崎ベルナールで開催され、国会議員現議員、戸田氏と同時期に議員であった方、戸田氏の関係者、市関係者が集い、受章をお祝いしました。



あらためて二元代表制とは

議員 本間 厚幸

最近、柏崎議会の議論の場で「二元代表制」「機関対立型」というような用語をよく耳にします。約十年前もそうでした。「議会の地位と権限特別委員会」なるものが設置され、議会改革をテーマに真剣に議論され、取り組まれました。そして、そのまともは当時としては、高く評価され、話題になったと思います。

内容は紙幅の関係で触れませんが、実は、その当時から今でも気になっていることがあります。「地位と権限」という名称のことです。

果たして、市民の皆様には理解され受け入れられていたんだろうか。自分たちを特別な存在として、議員の傲慢と思われるていたのではないか。という点であります。

名前は冒頭の二元代表制に係わって決まりました。

「二つの代表機関つまり議会と市長は、ともに市民の負託を受けて活動し、議会は多人数による合議制の機関として、また市長は独任制の機関として、それぞれの特性をい

かして、市民の意志を市政に的確に反映させるために競い合い、協力し合いながら、柏崎市としての最良の意思決定を導く使命が課せられている」簡単にまとめた日本の地方自治の制度「三元制代表制」解説であります。議会の活性化し、議員も力をつけ、成果を出したい。と進められたわけです。

さらに、二つ代表機関が互いに異なる特性をいかして、競争し協力すること。つまり緊張関係に立っていることも重要なことであります。機関対立型ともいわれる所以であります。対立主義が十分に作用すれば、議会の場において論点・争点が広く形成・公開されるといわれています。

首長と議会は対等な代表機構としても、選出方法からして当然、得手不得手はあります。「異なる特性」を生かす。市として最良の意思決定ができると思います。ところで国会は議員内閣制をとっています。議員が首班指名を行い内閣ができあがります。当然、与党・野党が生まれます。国と地方自治体、どちらも民主主義の制度であっても、議員内閣制の国会と

地方自治体の二元代表制には相違点があります。

地方自治体には、市長与党や野党という概念はないはずですが。

さらに忘れてはならないことは、自治体を運営する主体は、市民、首長、議員、職員であり、どんな機構やシステムではなく、柏崎市民を思う気持ちではないでしょうか。



懐かしい田植え風景

議員 吉野 芳章

昔から雪が降る地方では、雪は大敵であった。当地方では一年の半分は雪にとざされた生活を余儀なくされたと言

うことがいけばんであろう。農家においては、自給自足の生活であり、農作業も春雪消えまでの作業であった。その他の重労働と言えば、家の周

りの除雪にあるとも言う。聞く話には朝起ると家の周りには昨夜から降った雪が家や周囲の景色をスッポリと包み雪・雪という。一家の大黒柱の主人は出稼ぎに行っていて家を

守るのは、お母さんに委ねられていた。お母さんは子供達が学校に行く前にまず玄関から大通りまでの道つけ（雪を踏み固める）朝ご飯の用意をする。子供達に食事をさせ後

片付けした後、今度は家の周りの除雪に入り、家のガラス窓まで除ける。積雪の多いことによって何回も同じ所を上

から順に下に掘り下げていかなければならないのが重労働と言う。しかし、作業が毎日と言うことになれば体はクタクタ、病の発生源ともなりかねなかつたとも聞く。最近、

今年には雪が少なくて良いネと言う挨拶が降雪時の挨拶にもなる。反面、田の水は夏場大丈夫だろうかと心配もする。刈羽三山にも本年は雪が少なかつた。当地方農家では、霊峰米

山さんの残雪で、種まき爺さんや、鯉型と言われる姿を見て農作業の指針にしていたとも聞いている。種まき爺さんの姿では苗代作り（本田に植

える苗を育てる圃場）の作業に取り掛る判断。鯉型が出る頃は田植え時期と判断したそのである。

過日市内の中学校で「地域貢献活動」という活動をしており、受ける作業の内容は種々雑多である。あらかじめ日時を決定してあり、作業の内容を規定の申込書に記して学校に電話かファックスで申し込むという。作業内容が依頼主と学校側で成立するというシステム。田植え作業を依頼した農家での子供達の田植え作業を見ました。田植えされた圃場には「杵」が押

てあり、田植え本番を待っていました。（杵には、四角・六角・八角杵があり、最近では丸形杵もある）この日は二十

人の生徒が集り体操衣の出立ちでした。昔風で植え手を表現すれば「早乙女」たちである。横一列に並び自分の前の

三株く五株を持ち前進して行くのである。上手な人はグングン前に植えて行く。この作業も中腰での作業の為、重労働の一つと言えよう。久し振りに懐かしい田植え風景を見た

子供達ヨ、腰はどうでしたか？ ご苦労さまでした。



## 委員会審査から

### 総務常任委員会

総合企画部、財務部、市民生活部及び消防本部関係の案件を審査しました。

審査の中では、コミュニケーションセンターのアスベスト除去工事の工事期間と利用者への配慮、要介護者等家庭ごみ個別収集事業の対応、法人市民税還付金の内容、公益法人制度改革の対応と市の考え方、また、中越沖地震に係る被災者支援等の報告、新市民会館基本設計(案) などについて、質疑や意見がありました。



総務常任委員会



厚生常任委員会

### 厚生常任委員会

福祉保健部関係の案件を審査しました。

審査の中では、障害者自立支援対策臨時特例交付金事業で実施するメニューについて、高柳町保健センター国県補助金等還付金について、シルバ一人材センターが企画提案型事業として行う要介護者等家庭ごみ個別収集事業の内容、また、妊産婦、乳児及び子ども医療費助成に関する条例の一部を改正する条例、国民健康保険条例の一部を改正する条例などについて、質疑や意見がありました。

### 文教経済常任委員会

産業振興部及び教育委員会関係の案件を審査しました。

審査の中では、緊急雇用対策事業のこれまでの実績、雇用・経済対策の基本的な考え方、抜本的な取り組みと早い段階での対応の必要性などについて、また、小中学校の耐震診断と補強工事、キャリア教育パイロット事業の内容と進め方、その事業評価と将来展望、A L T を新たに採用するに当たつての影響や負担と配置の体制、小学校で外国語教育が始まることに対する取り組みなどについて、質疑や意見がありました。



文教経済常任委員会

### 建設企業常任委員会

都市整備部の案件を審査し、ガス水道局から報告を受けました。

審査の中では、柏崎・夢の森公園の所管課が維持管理課になった経緯、柏崎港観光交流センター「夕海」周辺の海上の港湾法に基づく区分、また、市営住宅条例の一部を改正する条例、市道路線の廃止及び認定、長岡市の市道路線認定に対する承諾、ガス事業の民営化延期の報告などについて、質疑や意見がありました。



建設企業常任委員会

### 議会だより編集委員会

- 委員長 吉川英二
- 副委員長 佐藤敏彦
- 委員 片山康夫 入沢徳明
- 村田幸多朗 星野正仁
- 若井洋一 遠藤 清
- 若井恵子 三井田孝欧

### 編集後記

「海の柏崎」と言われる我が郷土ですが、私が小さな頃、海といえば、浜での遊びも盛んでした。

瑪瑙やハリセンボンが落ちていないか波打ち際を探しまわって、気を抜くと大波をかぶり、はたまた浜ぐみを探ったり、浜を走りまわった際には浜ほうふにつまづいて転んだものでした。

海の醍醐味といえば、海水浴、マリンスポーツはもちろんですが、浜での遊びも季節を問わずなかなか趣味のあるものだと思います。

市外・県外の方にもこういった楽しみを知ってもらい、そして次の世代にも残せるよう、我々市民の力で浜を綺麗に、大切にしていきたいものです。

(三井田孝欧)